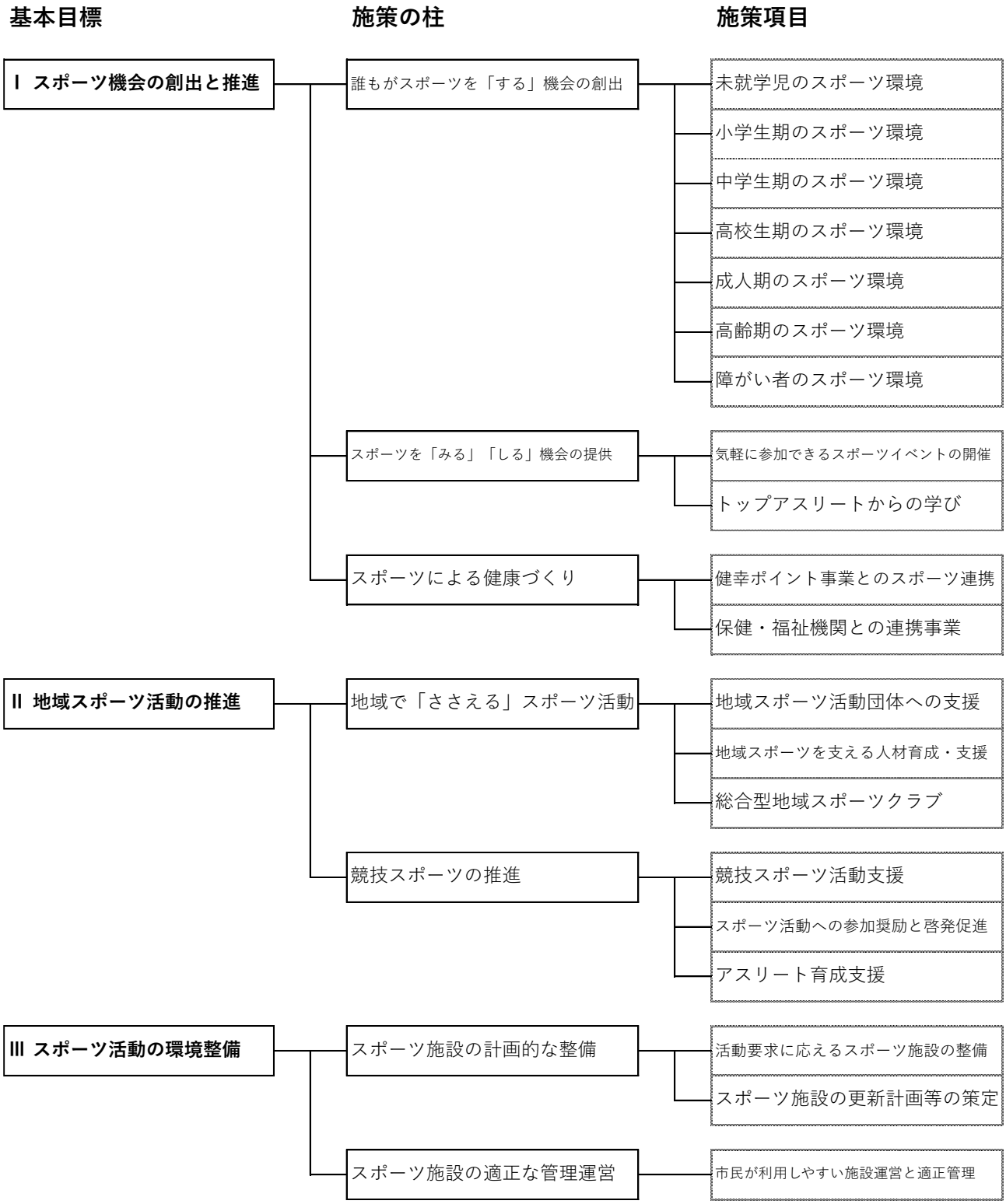
計画体系図


基本目標
施策の柱
施策項目
Ⅰ スポーツ機会の創出と推進
誰もがスポーツを「する」機会の創出
未就学児のスポーツ環境
小学生期のスポーツ環境
中学生期のスポーツ環境
高校生期のスポーツ環境
成人期のスポーツ環境
高齢期のスポーツ環境
障がい者のスポーツ環境
スポーツを「みる」「しる」機会の提供
気軽に参加できるスポーツイベントの開催
トップアスリートからの学び
スポーツによる健康づくり
健幸ポイント事業とのスポーツ連携
保健・福祉機関との連携事業
Ⅱ 地域スポーツ活動の推進
地域で「ささえる」スポーツ活動
地域スポーツ活動団体への支援
地域スポーツを支える人材育成・支援
総合型地域スポーツクラブ
競技スポーツの推進
競技スポーツ活動支援
スポーツ活動への参加奨励と啓発促進
アスリート育成支援
Ⅲ スポーツ活動の環境整備
スポーツ施設の計画的な整備
活動要求に応えるスポーツ施設の整備
スポーツ施設の更新計画等の策定
スポーツ施設の適正な管理運営
市民が利用しやすい施設運営と適正管理

基本目標Ⅰ　スポーツ機会の創出と推進

1　誰もがスポーツを「する」機会の創出

Ⅰ　未就学児のスポーツ環境

未就学児（3～6 歳頃）は「プレゴールデンエイジ」と呼ばれ、神経系の発達が著しい時期であり、走る・跳ぶ・投げるなどの基礎的動作を身につける重要な段階です。この時期に多様な動きを経験することは、後の運動能力向上につながり、さまざまな動作を見てすぐに真似して習得できる「即座の習得」の基盤が形成されるとされています。

このため、特定のスポーツに特化するのではなく、遊びを通じて楽しく全身をバランスよく動かす環境づくりが推奨されています。

現在、市内では未就学児を対象としたスポーツ体験教室を実施している団体が４団体あり、地域や幼稚園等で自主的に活動する遊びのサークルも存在しています。また、年長から小学６年生までが１日で多様なスポーツに触れられる「スポーツ縁日」（実行委員会主催）といったイベントも開催されています。

今後も、特定非営利活動法人ふらのスポーツ協会等と連携し、未就学児が楽しく多種目を体験できるイベントの充実や、親子で身体を動かす機会の提供など、未就学児のスポーツ環境の整備に継続して取り組みます。

＜　主な事業展開　＞

■遊びを通じて楽しみながら身体活動が行える取組の推進
■保護者が運動の大切さを認識し、親子で一緒に体を動かすことを楽しめる機会の充実
■親子で参加できるスポーツイベントやレクリエーションの実施
■SNSを活用した子育て団体等との連携による情報発信
■子育て支援センター等と連携した親子向け運動機会・交流の場の確保

Ⅱ　小学生期のスポーツ環境

小学生期（6～12 歳頃）、特に小学３年生から６年生（9～12 歳頃）は「ゴールデンエイジ」と呼ばれ、神経系の発達がほぼ完成に近づく時期です。この時期には動きの巧みさや技術を驚異的なスピードで習得できる「即座の習得」が可能であり、生涯に一度しか訪れない黄金期とされています。さまざまな運動を体験することで、将来の運動能力の基盤が形成されます。

令和７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査小学５年生の児童質問紙調査項目の「どんなときに体育の授業が楽しいと感じるか」の回答では、男女とも「いろいろな種目を体験したとき」が上位となっています。この結果からも子どもたちは、多くの運動体験を希望していることが想定されます。

この時期に重要なことは、多くの運動体験を通じて「運動の楽しさ」や「できた」という達成感を味わうことであり、特定のスポーツに偏らず、鬼ごっこ、縄跳び、鉄棒、ボール遊びなど、全身を使った多様な動きを経験することが推奨されています。また、このような経験は、自己肯定感や運動への意欲の向上にもつながると言われています。

小学生期のスポーツ活動の中心はスポーツ少年団活動ですが、少子化の影響により、活動規模の縮小や種目によってはチーム編成が困難になるなどの課題も生じています。今後は、多様な種目を体験できる地域スポーツクラブの育成や、子どもが気軽にスポーツに親しむ機会の提供を推進します。

スポーツ少年団数及び加入率（中学生除く）

	平成２８年度	令和３年度	令和８年度
スポーツ少年団本部登録数	24 団体　715 名	23 団体　432 名	21 団体　410 名
スポーツ少年団加入率	67.6%	46.4%	57.9%

※資料　富良野市スポーツ少年団本部

また、安全で質の高い指導を行うためには、スポーツ指導者（有資格者）の確保が重要であり、競技団体や地域における指導者育成の環境整備にも取り組んでいきます。

さらに、将来的な大幅な人口減少・少子化を見据え、中学生期以降の部活動地域展開とのスムーズな接続を考慮し、小学生期から多様な種目に触れつつ段階的に地域クラブ等へ親しめる体制や、多種目・複数団体の掛け持ち・選択が柔軟に行える環境づくりに努めます。また、保護者も一緒に指導内容やスポーツの楽しさを学べる機会を取り入れていく必要があります。

＜　主な事業展開　＞

■出前講座、スポーツ教室、親子によるレクリエーション等の開催
■スポーツ少年団への支援
■少年団やクラブ活動以外でスポーツに参加できる機会の提供
■子どもが継続してスポーツに親しむ環境の構築
■スポーツ指導者資格取得等助成事業による指導者養成
■子どもへの技術指導だけでなく、保護者の理解・参加・学びを促す仕組みづくり

Ⅲ　中学生期のスポーツ環境

中学生期（13～15 歳頃）は「ポストゴールデンエイジ」と呼ばれ、骨格や筋力が著しく発達し、パワーやスピードが向上する時期です。神経系の発達はほぼ完了しているため、新しい技術の習得よりも、既に身につけた技術の反復や精度向上、戦術・戦略理解、持久力の強化が効果的とされています。

この時期に重要なことは、基礎運動能力を土台としながら専門種目の技術向上を図ること、試合の映像などを活用し戦略的理解を深めること、そして心肺機能や筋力の発達に応じて精神面の育成にも取り組むなど、子どもの発達段階に応じた指導を行うことです。

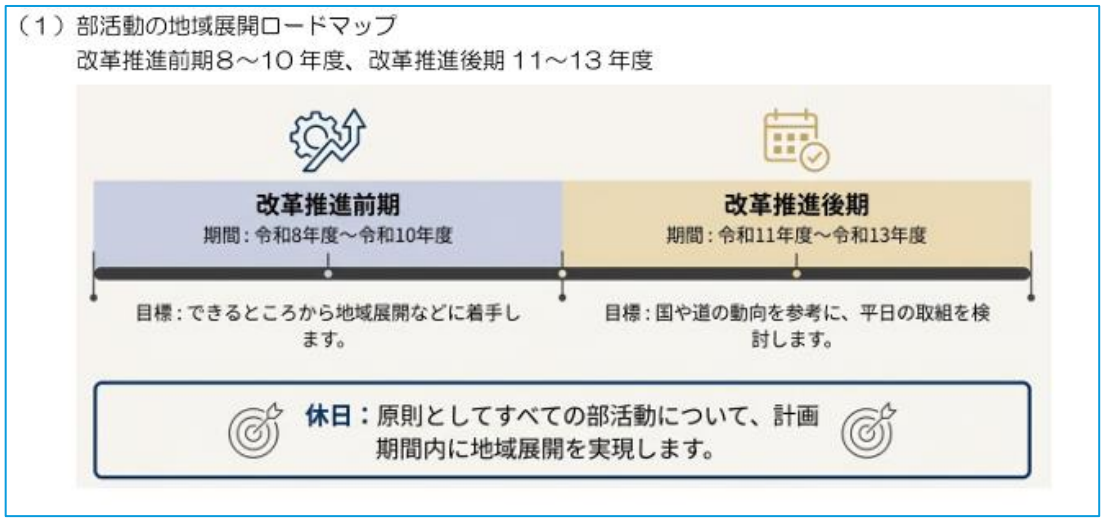
中学生期のスポーツ活動は部活動が中心ですが、少子化や教員の負担増により、学校だけで活動を維持することが難しくなってきています。このため、国では学校部活動を地域クラブや団体が担う「地域展開」の推進を進めており、専門的な資格を持つ指導者のもとで、子どもが継続的にスポーツや文化芸術活動に参加できる環境づくりが求められています。

令和８年度市内中学校部活動数及び加入率

	富良野東中学校	富良野西中学校	樹海学校	麓郷中学校	計
スポーツ系部活動数	9	9	2	2	22
文化系部活動数	2	2	0	0	4
部活動加入率	74%	75%	75%	89%	75%
全生徒数	250 人	198 人	８人	９人	484

※資料　富良野市教育委員会

本市においても、少子化によって学校単独でのチーム編成が困難になる種目も増えており、子どもが希望する競技が継続できるように、専門指導者の確保や地域ならではの多様な活動の場の確保が必要です。そのため、今後の部活動の地域展開に向けては、教育委員会において「富良野市部活動地域展開等推進計画」を策定し、令和１０年度までに拠点校方式による休日の地域展開を進め、さらに令和１３年度までには平日の地域展開へと取組みが予定されています。



※資料「富良野市部活動地域展開等推進計画(第1次)」　富良野市教育委員会(令和8年3月)

令和１３年度までの部活動地域展開に向けて、地域クラブ活動や総合型地域スポーツクラブの組織化、運営体制や費用負担のあり方など、多面的な課題整理を教育委員会と連携して進めます。あわせて地域クラブ等の対象を中学生だけに限らず小学生中心のスポーツ少年団活動から高校生の部活動までとした組織をめざし、子どものスポーツに対する気持ちを大切にした組織化を検討していきます。

令和７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査中学２年生の生徒質問紙調査項目の「どんなときに体育の授業が楽しいと感じるか」の回答では、男女とも「友達と交流したり、協力したりできたとき」が上位となっています。このことから、生徒たちはスポーツ活動に限らず文化活動も含めて、仲間と協力して物事に取り組みたい意欲が感じられます。

このため、競技大会への参加を目指す「競技型スポーツ」だけでなく、運動を楽しむことを目的とした生涯スポーツ型の「ゆる部活」の導入など、選択肢の幅を広げることも重要です。スポーツだけでなく、文化芸術活動も地域が支える体制の構築が必要であり、学校、文化芸術団体、地域が一体となって取り組む体制づくりに向け、協議を進めていきます。

＜　主な事業展開　＞

■運動部活動の地域展開によるスポーツの機会拡充
■スポーツ指導者資格取得等助成事業による指導者養成
■部活動地域展開に伴う利用施設･時間帯の調整･確保
■市街地･農村地区を問わない市内全域でのスポーツ参加機会の均等化と課題整理
■近隣市町村（沿線自治体）との広域的な協議･連携体制の推進

Ⅳ　高校生期のスポーツ環境

高校生期は、中学生期とは異なり、練習量や活動時間が増え、インターハイなどの競技大会での結果を目指す「勝利志向」が強まる傾向があります。その一方で、生活リズムの乱れや栄養不足、オーバーワークによるスポーツ障害などのリスクが高まる時期でもあります。また近年では、ダンス、自宅での筋力トレーニング、ｅスポーツ、ジョギング、アウトドア活動など、部活動に限定されない「楽しみ志向・自分らしさを重視したスポーツ」も広がり、心身のバランスやセルフマネジメントがより重要となる時期です。

令和７年度から市内の高校が１校となりスポーツ系部活動が増加しました。統合により活動拠点の確保が課題の一つとなり、限られたスポーツ施設を、中学校部活動の地域展開による利用、高校生の活動、一般市民の利用が重なる形で調整しながら活用している状況にあります。既存施設・グラウンド等の効果的な活用検討も含め、中学校部活動や一般利用とのバランスを図りながら、高校生が十分に活動できる拠点を確保していく必要があります。

また、高校生と中学生・小学生の先取り・合同部活動や異年齢交流など、地域資源や学校間連携を活かした取り組みなども検討します。

＜　主な事業展開　＞

■トップアスリートとの交流推進
■部活動以外でスポーツに参加できる機会の提供
■中高連携･地域クラブと高校部活動との合同練習や交流機会の促進

Ⅴ　成人期のスポーツ環境

成人期（18 歳以上）は、仕事や家事、子育てなどに多くの時間を費やす一方、日常的に運動・スポーツ活動から離れがちなため、健康維持や体力づくりが重要となる時期でもあります。運動不足は体力低下や生活習慣病のリスクを高めることから、健康維持・増進のためには、有酸素運動を中心とした継続的な運動習慣が重要だと言われています。

スポーツ庁や日本スポーツ協会では、誰もが生涯にわたり安全にスポーツへ参加できる環境づくりとして、「総合型地域スポーツクラブ」の普及促進、企業との連携、指導者の育成などを推進しています。また、競技者としての参加だけではなく、観戦、支援スタッフ、ボランティアなど、多様な関わり方が提示されており、成人期におけるスポーツとの多面的な関わり方が求められています。また、子どもの親世代がスポーツに親しむことが子どもへの良い影響につながるという視点も重視します。

本市においても、これらの考え方や国・関係団体が実施する支援の動向を踏まえ、総合型地域スポーツクラブの組織化や、働く世代が参加しやすいスポーツ機会の提供、企業との連携促進、指導者の育成などについて検討を進め、いつでも気軽に自分に合ったスポーツに取り組める環境づくりを推進していきます。

＜　主な事業展開　＞

■スポーツ活動を始めるきっかけづくりのための体験教室の実施
■健康面からの運動の重要性の啓発
■健康管理アプリや運動動画配信などデジタル技術を利用したスポーツ活動の推進
■個人でも手軽に継続的にスポーツに親しめるような環境づくり
■市内のスポーツ団体やサークルの紹介

Ⅵ　高齢期のスポーツ環境

高齢期（65 歳以上）におけるスポーツとの関わりは、無理なく続けられるウォーキングや軽い筋力トレーニング、フロアカーリング、パークゴルフ、ボッチャ、~~モルック、~~ふまねっとなど、個々の体力や健康状態に合わせた活動が大切です。~~最初から高い目標を設定せず、日常生活の中で無理なく続けられる「少しの運動」を仲間と楽しみながら継続できることが重要です。~~活動場所への通いやすさ（立地・交通手段）、参加しやすい費用設定、地域コミュニティとのつながりは、継続的な参加を支える要素となります。これらの活動を通して、フレイル予防や生活習慣病予防につなげることが目標となります。

~~高齢期の運動は、~~個々の体力や健康状態に合わせ、最初から高い目標を設定せず、日常生活の中で無理なく続けられる「少しの運動」を仲間と楽しみながら継続することは、いきいきとした生活を送るうえで重要となります。特に疲労を残さない適度な運動量と、必要に応じた専門家のアドバイス、そしてバランスの良い食生活など、健康を総合的に支える取り組みが大切です。

今後も、~~疲労を残さない適度な運動量と、必要に応じた専門家のアドバイス、そしてバランスの良い食生活など健康を総合的に支え、~~高齢者が安心して、楽しみながら体力づくりに取り組めるよう、地域の活動資源や拠点を活かした環境整備、参加しやすい教室やサークルの充実、専門的支援の導入などについて検討を進めていきます。

＜　主な事業展開　＞

■健康面からの運動の重要性の啓発
■ニュースポーツなどの生涯を通じて続けることのできるスポーツの普及
■世代間交流イベントの開催等による高齢者世代の活性化
■スポーツを通じた健康増進，生きがいづくりやコミュニティづくりの促進
■身近なコミュニティにおける軽スポーツ出前事業の実施

Ⅶ　障がい者のスポーツ環境

障がい者のスポーツ活動には、施設整備や用具の確保といったハード面、指導者・サポーターの育成、理解促進といったソフト面の両面において、さまざまな課題があります。一方で、東京パラリンピックやデフリンピックなどを通じて障がい者スポーツへの関心が全国的に高まりを見せており、障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめる環境づくりを進めることは、共生社会の実現に向けても重要な取組です。

今後も、障がい者スポーツ大会の開催や参加、気軽に体験できるイベントの実施を支援し、障がい者スポーツへの理解と関心を高める啓発活動に取り組んでいきます。また、必要なサポートを受けながら安心して参加できる環境整備を進めることで、誰もがスポーツを通じて交流し、支え合う地域づくりを目指します。

＜　主な事業展開　＞

■障がい者スポーツの普及・理解の促進に向けたイベントの推進
■市内での障がい者スポーツ大会及び北海道障がい者スポーツ大会参加支援
■障がい者スポーツの実施が可能な施設の環境整備や活動内容の情報提供
■障がい者スポーツを支えるボランティア・サポーターの育成